

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

4 公明党

3 大会・中央委員会

(1) 中央委員会

第五一中委

公明党第五一回中央委員会は、八五年九月一八日、公明会館で開かれた。冒頭、あいさつに立った竹入委員長は、秋の政局に臨む基本姿勢として中曽根内閣と対決する考えを強調し、防衛費のGNP比一%枠撤廃への動きや靖国神社公式参拝の強行などを強く批判した。また、衆院解散問題では、「年内でも、ダブル選挙でも毅然として受けて立つ」と述べ、選挙勝利のための党勢拡大と党内の団結をよびかけた(あいさつ全文は『公明新聞』八五年九月一九日付)。

つづいて議事に入り、矢野書記長が「党務報告」、二宮副委員長が「県本部役員人事承認の件」、笠間総務局長が「昭和六〇年度補正予算(案)」をそれぞれ提案し、質疑のあと、いずれも承認された。

第五二中委

公明党第五二回中央委員会は、八五年一二月五日、第二三回全国大会終了後九段会館内で開かれ、党大会で承認された新中央委員六五人が出席した。会議では、議長に池田克也衆院議員、副議長に駒谷明衆院議員、呉藤憲治石川県議が選出された。

第五三中委

公明党第五三回中央委員会は、八六年五月一二日、公明会館で開かれた。あいさつに立った竹入委員長は、衆院定数是正のための議長調停を受け入れる考えを示し、衆院解散問題では同日選戦略をきびしく批判した。また、委員長は選挙での争点として「平和」「健康」「活力」「二一世紀」の四つのテーマを掲げ、公明党が新たに発表した中長期社会経済計画「二一世紀トータルプラン」に沿った改革を進める方針を示した。そして最後に参院選比例区八〇〇万票獲得、五選挙区の勝利、ダブル選挙の場合には衆院六二名全員当選を強く訴えた(あいさつ全文は『公明新聞』八六年五月一三日付)。

つづいて、矢野書記長が「党務報告」、浅井副委員長が「都道府県本部活動方針(案)」、二宮副委員長が「県本部役員人事承認の件」、笠間総務局長が「昭和六〇年度決算報告(案)」をそれぞれ提案し、質疑のあと、いずれも承認された。

第五四中委

公明党第五四回中央委員会は、八六年一二月五日、第二四回全国大会終了後、九段会館内で開かれ、議長に宮地正介衆院議員、副議長に沼川洋一衆院議員、木村四郎愛知県議が、それぞれ新中央委員によって選出された。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
